中京 NEWS No.167

令和 5年 1月 5日

発行所：中京山岳会　編集人：織田善夫
事務所：津島市宇治町茶の里 102 浜田方
〒496-0008　☎ 0567-28-2954

新春を迎えて

■ 会員の皆さまには、それぞれ良い正月を迎えられたことと思います。

昨年は、当中京山岳会にとって、大きな変節の年でもありました。会員の減少と高齢化は、会存続の危機でもありました。そうした中、12 月から７月にかけて４人の新会員を迎え、11 月の月例山行は９人で養老三山へ登るなど、楽しく充実した山登りができたことは、明日への希望と大いに元気づけられたことでした。

■一方、鈴鹿で夏と秋に２件のアクシデントがあり、今後の教訓とすべき事案でありました。

そして、年末の会長の急逝です。20 年間に亘り会長として会をリードし、盛衰に身を置かれた本会の大黒柱でした。

■顔ぶれはずいぶん変わってきましたが、新たな山仲間と共に楽しく安全な山行で会の活性化を進めていきたいと思います。

パイオニア精神を旨としてきた中京ですが、合わせて多様性を持った会でもありました。自らの求めるスタイルに合わせて、今年も元気に山登りをしましょう !!

総務：織田

忘 年 会（偲ぶ会）　12月16日　栄

出席：浜田、織田、酒井、中平、伴野、市橋、水野、柴橋、水谷、中村、畑中　11 人

▲会長を「偲ぶ会」との想いと、新会員歓迎の意を含めて懇親会を開催した。市橋幹事の手際よい手配で、久しぶりに年の瀬の都心の酒席を楽しみ、賑やかになった会員の親睦を図ることができた。

月例山行　12 月の月例山行は中止、１月へ！

▲12 月の寧比曽岳は、全国的な大寒波、雪で中止した。１月へ繰越すことに。雪山なので冬装備一式が必要です。

山 岳 保 険　４月～３月の１年間

▲当会は、原則全員**山岳保険**に加入することとしています。ねらいは、他ではカバーできない**遭難捜索費用**です。このため、登山コースでエコノミーなＳタイプ（入通院補償なし）**年払い保険料 4,520 円**（前年より 70 円値上げ）で、**傷害死亡・後遺障害、遭難捜索費用各 100 万円、日常生活賠償１億円**です。会で一括申込加入します。

⑦ インド・ヒマラヤ　ラダック便り・沖

東海支部 登山隊　総隊長 沖　允人

総括・反省・謝辞

▲ インド辺境地帯の 4000mを超す過酷な自然環境の中での高齢者を中心とした登山隊であったが、力を合わせ一応の目的を達成した。ご後援頂いた「中日新聞社」並びに「愛知県山岳連盟」、登山許可をいただいたインド政府並びに Indian　Mountaineering　Foundation=ＩＭＦ)、現地旅行エイジェント、デリー（ＳＡＧＡ　ＩＭＰＥＸ）、マナリ（ＴＲＥＫ　ＩＮＤＩＡ　ＯＵＴＤＯＯＲＳ）、レー（ＨＩＤＤＥＮ　ＨＩＭＡＬＡＹＡ）各社をはじめ多くの皆様のご支援・ご協力いただいた関係各位に心からお礼申し上げる。

登頂記録

▲以下の記録は、レーにて下山後、隊荷の整理の間を縫って、星隊長とリエゾンオフィサーが同席して、栗木登攀隊長、岩瀬登攀副隊長、鍛次隊員がラリモーホテルで会議をもち、まとめたもので１ある。記録の整理は沖総隊長が担当した。

６月30日　ＢＣ（５２７８m）予定地に 14 時 30 分ころ到着し、ＢＣを設営した。

７月１日　ＢＣで全員が休養とした。

７月２日　Gapo (6150m)の上部ルート偵察のため２隊を編成した。インド人スタッフによる氷河チームは、Gapori Gl. を詰めて Gapori の西にのびたコル（山頂から 500mほど西にある）まで偵察に行った。ＢＣから往復で５時間ほどかけＢＣに帰着した。コルから見上げた頂上への上部ルートは、痩せたボロボロの岩稜で危険が多く、登頂ルートとしては採用できないと判断した。日本人３名栗木（登攀隊長）、岩瀬（登攀副隊長）、鍛次隊員を含めて「稜線グループ」６名（ガジェンドラ・デシュムク、テジラム・タッカー、マヤンク・シャルマ）は　ＢＣよりGapoRi,からSaldor Ri（5942mＧＰＳによる高度）に続く東陵上（5600m付近）まで偵察した。　――以下次号